



「Great Nature Story 肱川あらし これでキミも “あらし” 予報士!!」

大洲市・名越利幸・松本浩司 著
エス・ピー・シー, 2015年3月
95頁, 1,500円(本体価格)
ISBN 978-4-89983-197-6

愛媛県大洲市の長浜地区で寒候期にみられる「肱川あらし」。評者も現地で観測した経験をもつが、肱川の川面から発生した蒸気霧と内陸の大洲盆地で発生した放射霧が二層構造を成して強風とともに長浜地区へと流れ出してくる、その様子に圧倒された。この肱川あらしは気象学的には地峡風(gap wind)という現象で知られ、冷たい霧を伴った10 m/sを超える強い風が肱川河口のごく狭い地域の地上で吹きつける。本書は、岩手大学教育学部の名越利幸教授の監修によって愛媛県大洲市が刊行した、肱川あらしを様々な角度から紹介した一般向けの書籍である。

本書は、おおまかに以下のような4部の構成となっている。

- ・肱川あらしのダイナミズム
- ・「肱川」でこんな“ふしぎ”が起こっている
- ・「肱川あらし」の発生を予報しよう!
- ・「肱川」が流れるまち 大洲へ行こう

「肱川あらしのダイナミズム」では、霧によって可視化された肱川あらしの姿を多数の美しい写真によって読者を引きこむ。地上の住民に強風が吹きつける様はもちろんのこと、上空から接写された、まさに「ダイナミック」な肱川あらしの全容には、読者も興奮を覚えるだろう。評者もこれまでに肱川あらしの写真を何枚か目にするにはあったが、本書で紹介された写真は秀逸な作品といえる。一方で、実際に写真を撮影した飛行撮影家の生の声やメディアでも活躍する森田正光さんの解説も含めることで、肱川あらしの雄大さや世界的にも珍しい現象であるという実感が読者も沸いてくるだろう。

「肱川でこんな“ふしぎ”が起こっている」では、肱川あらしが如何に世界で唯一無二の現象であるかを気象学的な側面から丁寧に説明している。この内容に多数のページを割いていることは、単なる気象現象の紹介本や図鑑として終わっていないといえる。ここで

は、肱川あらしが引き連れてくる蒸気霧と放射霧の発生メカニズムをそれぞれ図解しており、前半では地元の愛媛県立長浜高等学校の教諭と生徒たちによる長年の研究苦労話を、漫画も交えて披露している。やはり地元の人の声は説得力も強く、その探究心にはただただ敬服する。後半は肱川あらしの強風が生じるメカニズムを、専門家が発表した既往研究にもとづいて一般の人にもわかるよう平易に解説している。現地での気象観測や数値シミュレーションで示された結果が限られたページのなかで丁寧にまとめられており、肱川あらしだけでなく局地風の研究をこれから志そうとする大学生や研究者にとっても、価値のある内容として読むことができるだろう。

ここまでが本書のメインともいえる多くのページが割かれている。これ以降の内容は、肱川あらし自体を知りたかった人は読み飛ばしても差し支えない。「肱川あらしの発生を予報しよう!」では、これまでの内容を踏まえて、肱川あらしの発生を地上天気図や気象条件からクイズ形式で予測する。特に前述の、既往研究による肱川あらし発生メカニズムの解説がやや難しく感じた読者には理解が深まる点で、着想がユニークである。これで終わってしまうと単なる復習にしかすぎないが、その直後に地元の「肱川あらし予報会」の方々による気象データの解析や観天望気からの肱川あらしの発生条件が紹介され、ここまでの内容がひとつにつながって納得できるあたりがうれしい。

そして最後の「肱川が流れるまち 大洲へ行こう」では、肱川の歴史や大洲市の観光が紹介されている。もちろん、地元で有名な肱川あらしのビュースポットも写真付きで多く紹介されており、それぞれの場所から肱川あらしや霧がどのように観察できるかがよくわかる。先ほどは読み飛ばしても差し支えないと言ったが、せっかくなのでこのページで大洲市の観光地やグルメも知ってもらい、肱川あらしの見学に行ったとき一緒に堪能してもらいたい。

以上が概説であるが、肱川あらしを知らない読者をうまく引き込むよう、話題の進め方が非常によく練られており、本書を発刊した大洲市の並々ならぬ情熱が伝わってくる。単に地域の町おこし、観光アピールの紹介本ではなく、肱川あらしという現象の面白さを科学的に捉えて紹介している。特に気象学の専門家と地元住民の経験談を両方絡めることで、肱川あらしの理解が多面的に深まる構成になった。おかげで、ある程度知識を持った評者も本書の展開に最後まで引き込ま

れ、改めて肱川あらしの不思議な姿に魅了された。監修者が気象学の専門家だけあって、概念を説明するイラストも効果的に差し込まれており、一般向け書籍とはいえ、これから局地気象学を学ぼうとする大学生にとっても十分勉強になる一冊だろう。ただし本書は、前書きがなく読み始めることになるため、発刊に至った経緯などを知ることができないのが唯一、個人的に

は残念であった。

インターネット時代の今では、はるか遠くで起こる自然現象をカメラ越しに眺めることのできる便利な世の中となった。しかしこの本を片手に大洲市を訪れて、肱川あらしを実際に体感することで自然の雄大さを自分の肌で感じてほしいと思う。

(岡山理科大学 大橋唯太)